

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

<身近な自然とのつながり>

【光の世界を探求しよう：自然光との出会いからはじまる光の世界の探究】

<テーマの設定理由>

園内には、園庭、テラスなど、四季を通じて自然と豊かに繋がる環境があります。

自然の陽光、月光は、戸外で出会うことに限らず、室内でも、窓から見えたり、差し込む光、明かりを受けて感じたり、素材とつながることから織りなされる不思議さをもたらしてくれます。

身近な自然とのつながりを大きなテーマにする中で、光と出会った子どもたちが好奇心豊かに繋がり、多様に探究、表現する姿から、テーマを絞って環境を創り出してみたいと考え設定しました。

2. 活動スケジュール

①7月～9月：夏の光の探究（自然光（陽光・月光）と自然物）

②10月～12月：秋の光の探究（陽光・月光・人工光とさまざまな素材・現象）

③1月～3月：冬の光の探究（光源＜自然光やライトテーブル・OHP・電灯＞による探究）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・7月～9月：夏の探究

【透明容器・水・複数の容器・カラーセロファン・天体望遠鏡・デジタルカメラ他】

・10月～12月：秋の探究

【植物・天体望遠鏡・水・植物・アクリル板積み木・カラーセロファン・ライトテーブル他】

・1月～3月：冬の探究

【ライトテーブル・懐中電灯・OHP いろいろな素材 他】

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【日常の中での子ども達の気づきや好奇心を持って関わる姿をもとに、場所、素材の環境を用意して、園全体で光の世界を探究できる活動環境、内容を工夫し、設定しました】

- ①太陽の光・月の光の不思議との出会いなおし、探求してみよう。
- ②光（自然光・人工光）と素材との繋がりから織りなされる世界の不思議を探求してみよう。
- ③光源を用いて試してみよう、探究してみよう。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

反射、透過、影を映し出すなど、光との出会いを意図した仕掛けや問いかけをしていく中で、特に0歳児がはじめて光の不思議さや美しさ、温もりなどに目で、耳で、皮膚で受け取り、探究が始まる瞬間は印象的でした。どの年齢でも自分なりのことば、表現で、発見を周囲に伝える姿が見られ、写真等を通して共有していく事で、一人の気づきや発見が他者の、園全体の探究意欲やあらたな発見につながっていきました。子どもたちは、光がもつ性質（透過、反射、照らす、影を映し出すなど）を大人が予測しなかったひらめきで試しながら、次の環境をデザインしていく提案をもたらしてくれました。光によって影が映る様子を「空が袋に入った」「地面にぼくが入っちゃった」と表現することが、とてもおもしろかったです。ライトテーブルでの探究が始まると、透過の性質を利用して混色のおもしろさを発見していく姿もありました。素材によって光が透けたり透けなかったり、色が映ったり映らない(黒い)などの発見をしていく様子もありました。保育者の問いかけに、その子なりの仮説をたて、異なる意見を出し合い、共に探究する中で、保育者もあらためて常に身近にある光の世界に気づき、学びなおすことができました。

活動の記録写真



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもたちは、好奇心を寄せた世界を知ろうとする中で、大人たちが考えているよりももっと多様な方法を思い付き、試そうとする。自ら、自由に、ゆったりと試せる時間と空間が大切である。
- ・子どもが探究している世界へのまなざし、保育者の問いかけにより、可能性の引き出しや探究の深まり、学びに向かうプロセスが大きく変化する。子どもと保育者が共に探究しながら、活動の内容や環境を創り出していくことが大切。提案を通して探究を支えていく視点も重要なので、実践を省察し、研究していくことが重要である。
- ・子どもたちの姿やつぶやきや表現を丁寧に受け取りながら探究していく事で、大人になり当たり前になっていたことが実は理解できていないことに気づいたり、学ぶことのおもしろさを実感できた。